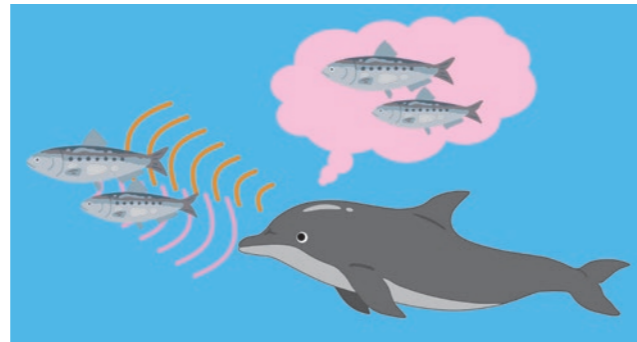


## エコーロケーションについて

イルカグループ 竹鼻 瞭

イルカは水中で暮らしている中で様々な音を発します。そのひとつに、「クリックス」という種類の音があります。これは「ギリギリ」とか「ギギギギ」といったふうに聞こえる音で、それが物体に当たって反射してくる音を聞いて、物体の大きさや形、材質、距離などを判別しています。この能力を「エコーロケーション」といい、潜水艦のソナーや漁船の魚群探知機の仕組みと同様のものです。この能力があるから暗い深い海や透明度の低い海中でも、餌である魚などを捕まえたりすることができるのです。ちなみに陸上の動物ではコウモリがこのエコーロケーションを使って暗い洞窟等で生活していることが知られています。このクリックス音は、水族館の亚克力ガラス越しでも

聞こえますので、ぜひイルカを観察しながら耳を傾けてみてください。



## あさむしNEWS

### タッチコーナーが新しくなりました♪

魚類グループ 竹中 樹里



浅虫水族館の人気エリアのタッチコーナーを2023年2月にリニューアルしました。今回のリニューアルではお客様により楽しんでいただく為、水深を浅くし、小さなお子様でも生き物に触れやすく、自分で手に取る喜びを感じることができるようにしました。また自然のタイドプールを再現し、生き物がかわいらしく隠れている様子も見ることができます。

触れる生き物は磯に生息するイソガニやヤドカリ、ヒトデをはじめドROMEなどの魚たち、漁師さんからいただいたホタテ・ホヤ・トゲクリガニ・ナマコなど青森の食卓で馴染みの深い生き物たちになります。さらに、生き物により興味をもっていただく為、新しく設置したサイネージでは「ヒトデを裏返してみよう」といった観察の方法や、生き物の種類の見分け方、「ホヤはどこからエサを食べる？」など生態もわかりやすく学べるように解説しています。

小さなお子様はもちろんですが、ぜひ大人の方にも新しいタッチコーナーを楽しんでもらえればうれしいです。



### ● 飼育生物

	種類	点数
海水魚	110	2,966
淡水魚	38	2,004
無脊椎動物	43	2,830
両生類	14	103
爬虫類	2	3
イルカ	2	10
アシカ	1	3
アザラシ	2	8
ペンギン	1	16
合計	213	7,943

2023年3月31日現在

### ● 入館者数

2022年度	一般	幼児など	入館者計
4月	10,125	3,553	13,678
5月	26,594	9,164	35,758
6月	17,336	6,464	23,800
7月	21,084	7,329	28,413
8月	33,583	9,109	42,692
9月	19,115	6,869	25,984
10月	18,882	6,164	25,046
11月	14,863	4,965	19,828
12月	8,777	2,831	11,608
1月	9,855	3,558	13,413
2月	8,274	3,183	11,457
3月	18,766	6,355	25,121
合計	207,254	69,544	276,798

### 表紙説明 ゼニガタアザラシ

ゼニガタアザラシのサツキ。ゼニガタアザラシの繁殖は当館初の出来事でしたが、元気に成長しています。

### マリンスノー No.43 2023年3月発行

青森県営浅虫水族館  
〒039-3501 青森市浅虫字馬場山1の25  
TEL 017-752-3377 FAX 017-752-3379  
<https://www.asamushi-aqua.com>

# Marine Snow

@asamushi aquarium



# 2023.3

# 当館初誕生!ゼニガタアザラシのサツキ

海獣グループ 三浦 辰馬

2022年5月13日にゼニガタアザラシの赤ちゃんが生まれました。性別はメス、当館ではゼニガタアザラシの誕生は初めてになります。5月の岩場に咲く“サツキ”の花のように強く生きてほしいということから、「サツキ」と名付けました。



図1. エコー検査をしている「静」

母親は「静(しず)」、2015年に野生から搬入した個体です。ゼニガタアザラシプールにはオス3頭、メス2頭を飼育しています。当初、父親がどの個体かわかりませんでしたが、その後に採血した血液のDNA検査により「ハッチ」だとわかりました。

今回母親となった「静」は、2021年に6歳となり、メスのゼニガタアザラシの繁殖可能年齢とされる4歳を超え、繁殖が期待されていました。しかし、繁殖期である5～6月に交尾は確認できず、諦めかけていましたが、10月頃から体重が徐々に増え始め、お腹の一部も大きくなっているように見えました。

「これはもしかして!!」と思いエコー検査を実施すると、胎児の背骨のようなものが確認でき、妊娠を確信しました。そこから「静」のお腹はどんどん大きくなっていき、体重も増えていきました。

そして迎えた出産当日。「静」は、昼間から上陸して休んでいることが多く、生殖孔からの粘液も確認できました。そろそろ出産が近いと感じ、スタッフ一同、固唾を飲んで見守っていました。そして16時頃、無事「サツキ」を出産しました!母子ともに元気そうでホッと胸をなでおろしましたが、大変なのはこれからです。「静」は初産のため上手に授乳できるかわかりません。うまくできなかった場合は飼育員が親代わりになる「人工哺育」になります。準備を整え見守っていましたが、1時間後無事に授乳を確認することができました。

このまま展示プール内で順調に子育てが進むと思われましたが、共に飼育しているオス個体が、「サツキ」の後ろ脚を噛んで水中に引きずり込むというアクシデントが起きました。あわてて展示プールに入り「静」と「サツキ」を安全であるバックヤードに急遽収容しました。慣れない環境で授乳しなくなるのではと心配しましたが、次の日には授乳が確認できたので一安心でした。

「静」の愛情を受けてすくすくと育っていった「サツキ」は、展示プールに戻った後も元気に泳いだり上陸してミルクを飲んだり元気な姿を見せてくれました。そんな時でも、「静」は「サツキ」から離れずずっと見守っていました。今回初めての出産、子育てを経

験した「静」でしたが初めてとは思えない「母親らしさ」には驚かされてばかりでした。

授乳は1日に2～3回確認でき、誕生直後は体重が18kgだったものが、生後3週間でおよそ32kgまで増えていきました。アザラシの授乳期間はおよそ3週間で、その間に脂肪分の高いミルクをたくさん与えます。「サツキ」の体重が増えていくにつれて、「静」の体重はどんどん減っていき、出産前の体重が125kgだったのに対し、離乳時には65kgまで減っていました。

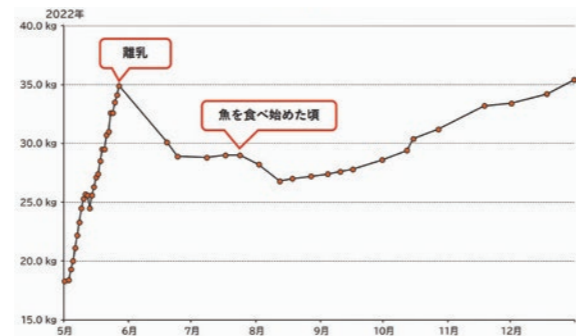


図2. 生後半の「サツキ」の体重推移

「サツキ」は離乳後、再びバックヤードに収容して飼育員の手元から魚を食べる練習を開始しました。最初はイカナゴやホッケ、アジを与えていましたが、興味を示すもののかじってぐちゃぐちゃにするだけで食べてくれませんでした。そして約1週間後、ダイライトプール(長さ90cm×幅180cm×深さ40cm)に入れておいたイカナゴが1本なくなっていることに気が付きました。もしかしてと思いついでイカナゴを動かしてみた所、もたつきながらも魚を食べてくれました!最初食べるのはイカナゴだけで、アジやホッケは噛んで吐き出してしまうことが多かったのですが、今ではホッケやアジもスムーズに食べてくれます。



図3. 上陸して寝ている「サツキ」とそれを見守る静



図4. イカナゴを食べる「サツキ」、最近では選り好みなく食べる

現在は、5頭のゼニガタアザラシと一緒に仲良く展示プールで暮らしており、1月12日時点の体重は35.4kgでした。大人のゼニガタアザラシの体重は100kgを超えます。この先「サツキ」がどのような成長を見せてくれるのかとても楽しみです。

今回ゼニガタアザラシの出産は経験がなかったため、人工哺育の準備や監視カメラを展示プールやバックヤードに設置し、出産に備えていました。そのおかげで、子育ての様子や親子の行動を観察でき、貴重なデータを集めることができました。今後の繁殖や健康管理に向けて、今回の経験やデータを生かして行きたいと思えます。

# 企画展「アクア学びうむ～豊かな地球を未来に～」

広報企画グループ 久保 真司

近年、SDGsというワードをよく見かけたり、当館へ来館される学校団体からSDGsについての講話を依頼されることが増えたりと、環境教育に対するニーズが高まっています。そこで教育施設としての水族館の役割を果たすため、2階展示ホール(縦6m、横16m)において企画展「アクア学びうむ～豊かな地球を未来に～」を2022年4月11日から2023年3月31日まで開催しました。そこで今回はその概要を紹介します。

本企画展は、海や川、湖など水辺の環境問題について学ぶことを皮切りに、生物多様性の保全そしてSDGs達成の大切さを知り、豊かな地球を未来の世代に引き継いでいくために、今私たち一人一人に何ができるのかを考えていただける内容になっています。水辺の環境問題として、4月11日～7月31日までは「水産資源の管理」、8月6日～11月27日までは「海洋プラスチック問題」、12月3日～翌年3月31日までは「外来種問題」について展示し、「生物多様性」と「SDGs」については常設展示としました。

入口には企画展のタイトル及び趣旨を掲示し、来館者に企画展の大枠が伝わるようにしました(図1)。



図1. 企画展入口



図2. 特定外来生物のウシガエル

水産資源の管理(図3)では、世界や日本、そして青森県も水産資源がピンチな状態であることを資源量や漁獲量などの経年データを用いて示し、危機感を感じてもらえるようにしました。そして、水産資源のめぐみを受け続けていくためには、その管理が大切で、国や漁業者、販売者などの取り組みを知るとともに、私たち消費者も特定の種類の魚ばかりを集中的に食べないようにしたり、水産エコラベルのついた商品を購入したりするなど、今すぐできることがあることを紹介しました。



図3. 水産資源の管理の展示



図4. 海洋プラスチック問題の展示

海洋プラスチック問題では、海の生物が廃棄された漁網に絡まったり、レジ袋を食べてしまったりする被害は有名ですが、海中のプラスチックが吸着した有毒物質を食物連鎖によって人間も取り込んでしまうことで、繁殖率低下やガン発症率上昇につながる可能性を紹介しました(図4)。まとめとして、プラスチック使用を減らすためにマイバッグ、マイボトルを持ち歩くなど、できることから続けてみるのが大切であることをお伝えしました。

外来種問題では、青森県に生息する6種類(オオハンゴンソウ、

ムラサキガイ、アメリカザリガニ、ウシガエル、モツゴ、オオクチバス)の外来種を取り上げて解説し、前2種以外については生体展示も行いました(図5)。そして、一度定着した外来種の完全駆除はとても難しく、たった1ペア、たった数個の卵の取り残しで再繁殖してしまうことを紹介し、私たちにできることとして、外来種を「入れない・捨てない・拡げない」の三原則を守ることが大切であることをお伝えしました。



図5. 外来種生体展示



図6. 生物多様性の危機

開催期間を通しての展示として、地球全体に目を向けて、生物多様性の定義・めぐみ・危機について紹介し、1種類の生物の絶滅が引き金となり、ドミノ倒しのように複数の種が絶滅し、最終的には人間を含めた生物の全滅につながる可能性があることを解説しました(図6)。

そして、生物多様性の保全を含め貧困や差別など世界は様々な問題を抱えており、それらを2030年までに解決するために一人一人が取り組んでいく目標であるSDGsについて紹介しました。さらに当館のSDGs達成に向けた取り組みとして、SDGsの最前線つまり基盤として大切なのは、豊かな生物多様性を維持していることであるとの考えを伝え、その保全に向けた行動ができるような人を育むことができる施設を目指していることを宣言しました(図7)。



図7. 浅虫水族館のSDGs達成への取り組み



図8. プロジェクターによる解説

また、「水族館スタッフがやってみたSDGsな行動」を紹介するとともに、「みんながやってみたSDGsな行動」をTwitterでツイートしてシェアしようと呼びかけました。その投稿をプロジェクターで投影し(図8)、来館者にお見せすることによって、SDGsを達成するための行動は色々あるのだと感じてもらい、豊かな地球を未来へ引き継いでいくための大切な行動について考える場を提供して本企画展のまとめとしました。

来館者アンケートからは「様々な環境問題があることを改めて知りました」、「できることからやっていきたい」など多くのご意見をいただきました。当館ではこれからも水生生物の魅力をお伝えしていくことをはじめ、SDGs達成そして持続可能な社会の実現に貢献していきます。

※本企画展は、船の科学館「海の学びミュージアムサポート」の支援を受けて実施しました。